

高度技能や検査記録を電子データで視覚的に管理

“新作業標準書”を開発、運用開始

森精機製作所はこの度、製品の組立作業手順などを説明する“新作業標準書”を開発し、運用を開始しました。

新作業標準書は、従来からある作業標準書に代わるものとして、高度技能やノウハウを、ビデオや写真を用いてより視覚的に表現することと、検査記録を電子化してより厳格な品質管理を行うことを目的として開発しました。

組立作業者は、PC の画面に表示される作業手順を確認しながら組立を行い、要所での測定値を PC に入力していきます。万一測定値が許容値を外れた場合には、その場でアラーム表示をするとともに、その先の組立工程に進ませない機能を持っています。さらに、測定値は使用した測定器の情報とともにデータで管理されるため、品質管理のトレーサビリティ(いつ誰がどの測定器を用いて測定したのか、などの処理履歴の追跡可能性)も向上しています。

新作業標準書は、工作機械の心臓部であり高い組立精度が要求される主軸ユニットの組立工程から運用を開始し、DIXI Machines(スイス、ル・ロックル市)での NMV5000 DCG の生産にも活用しています。組立品質の確保だけでなく、海外生産の早期立ち上げや、セル生産推進のための教育教材としても成果を上げています。

11 月 14 日(水)～17 日(土)に弊社千葉事業所にて行われます初冬プロダクティビティショー2007 では、NT シリーズの組立工程で使用している様子をご覧くださいことができます。



図:新作業標準書の画面例(主軸の組立工程)